

「Eco列車でいこう!」～第117回～ 8年目の三陸。

(CO2排出量の少ない交通機関での旅行を応援していくコーナーです!)



東日本大震災から8年。津波に襲われた三陸の復興状況を見たくて、3月2日(土)の早朝に出発した。「青春18きっぷ」を使い、今回も鈍行旅だ。

村上、余目、新庄で乗り換えて、12:09に宮城県の小牛田着。「食ベログ」で見つけた食堂で、「とりちゅう」を食べる。鶏肉のチャーシューメンのことで、あっさりしたスープがおいしかった。

東北本線を北上し、花巻から釜石線に乗り換え。夕刻、釜石駅直結のホテル「フォルクローロ釜石」にチェックインした。

夕食は近くの居酒屋で。頑固そうな親父さんが営む刺身専門店だ。口数の少ない親父さんから、釜石の栄枯盛衰を聞く。溶鉱炉が燃えさかり、製鉄が盛況だったころ。10万人をこえた人口。給料日になると賑わった飲食店街。社会人ラグビー「新日鉄釜石」の七連覇。溶鉱炉の火が消え、その後寂れた街のこと。そして津波。進まない復興・・・。

翌日は6:15の三陸鉄道南リアス線の始発列車に乗る。「あまちゃん」などで有名な三陸鉄道だが、この列車の乗客は自分一人だけ。過疎地を走るこの私鉄の経営状況は決して順調ではないだろう。

大船渡市の中心「盛」でBRT(バス)に乗り換える。震災前までは、鉄道が走っていたが、復旧を断念し、かつて線路があった道をバスが走っている。

バスからは復興状況が良く見える。湾があるごとに高い防潮堤が築かれ、街があるごとに盛土をした新市街地の中に行く。市街地が壊滅した陸前高田では、他の街とはケタ違いの大規模な盛土が行われており、商業施設が再開されていた。

気仙沼、南三陸などを通り、12:49に女川着。他の市町村に比べて、早期に再生した街を見るために寄り道をした。

駅には日帰り温泉が併設されており、すぐそばにはトレーラーハウスを利用した宿泊施設がある。駅から海に向かって歩くと、新しくおしゃれな商店街が広がり、お土産物屋やコンビニ、海産物屋やレストランが立ち並び、新鮮な魚を買って、その場でバーベキューを楽しむことも可能で、温かい気候のこの日には、たくさんの家族連れでにぎわっていた。

釜石から三陸沿いを南下し、いくつもの街を見た。どこもかしこも工事中で、完全な復興までには、まだ長い年月がかかることだろう。

まだ三陸に行ったことない人は、ぜひ一度足を運んでほしい。三陸にはおいしいものがたくさんあるし、リアス式海岸の絶景もある。そして震災の爪痕も残る。食堂に入り、店主から話を聞くのも良い。震災の資料館に行くのもいいだろう。

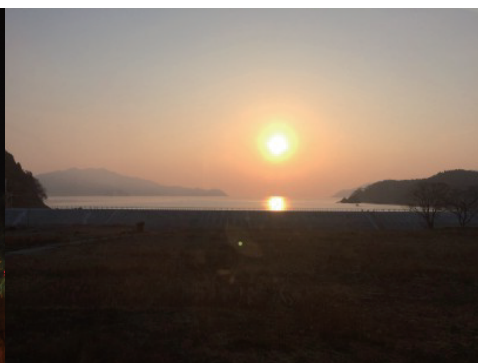
三陸の旅は、楽しいだけの旅ではないし、悲しいだけの旅でもない。これほど「生きているありがたさを感じる旅」ができる場所は、他にあるだろうか。

【3月2～3日】

新	湯	4:56
村	上	5:52
		5:56
余	目	7:58
		8:01
新	庄	8:53
		10:01
小	牛	12:09
田		12:51
一	関	13:38
		13:45
花	巻	14:35
		14:41
釜	石	16:41
釜	石	6:15
	盛	7:02
		7:09
気	仙	8:26
	沼	9:20
柳	津	11:16
		11:30
前	谷	11:51
	地	11:54
女	川	12:49
		13:24
石	巻	13:50
		13:57
仙	台	15:01
		16:00
山	形	17:18
		17:35
米	沢	18:25
		18:32
新	湯	21:25



釜石の夜景



三陸海岸の朝日



女川駅